

経済産業Report

寄港地消費の喚起が期待されるクルーズ船誘致 ～2025年度は過去最高の寄港回数に～

再興と地方誘客を進めるクルーズ船誘致

全国の外国クルーズ船の寄港回数は2023年以降急回復し、2024年は1,923回とコロナ禍前の2019年の水準（1,932回）を回復しました（図表1）。

2023年3月に閣議決定された「観光立国推進基本計画」（2023～25年度）では、2025年に①訪日クルーズ旅客数および外国クルーズ船の寄港回数をコロナ禍前ピークの水準に回復させるとともに、②地方誘客を進めるため外国クルーズ船の寄港港湾数（※）を100港とする目標を掲げていますが、クルーズ再興に向けたハード・ソフト両面の取り組みの成果が上がりつつあります。

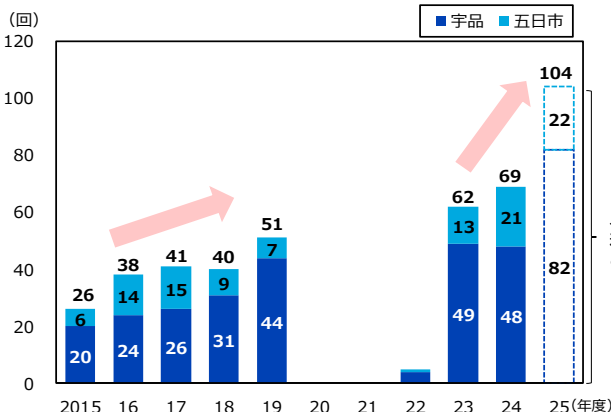
（※）外国クルーズ船寄港港湾数：
2019年67港湾（コロナ禍前ピーク）→23年・24年ともに97港湾

広島港への寄港は過去最高をさらに更新

因みに、2025年度の広島港（宇品港・五日市港）の外国クルーズ船寄港回数は104回と、過去最高であった2024年度（69回）をさらに大きく上回る見込みです（図表2）。このことは、昨年3月、宇品港にクルーズターミナルが完成し、施設面が充実したことに加え、外国クルーズ船社や旅行会社に対し、国内主要港等と連携したFAMトリップ（観光視察）や商談会といった誘致活動を、広島県を中心に積極化していることも奏功したとみられます。

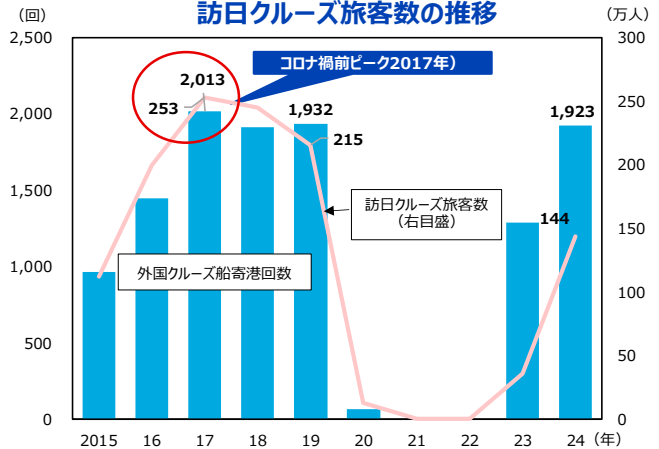
ただし、クルーズ船は宿泊・食事、娯楽等をはじめ船内の設備・サービスが充実しており、寄港地の経済効果はさほどないとの指摘もあります。県では上質な寄港地ツアーの造成支援など寄港地消費の喚起に取り組むとしていますが、こうした活動を活発化させ如何に経済効果の最大化を図るかが、地方のクルーズ船誘致の大きな課題となっています。

図表2 広島港の外国クルーズ船寄港回数の推移



（資料）広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

図表1 全国の外国クルーズ船寄港回数・訪日クルーズ旅客数の推移



（資料）国土交通省プレスリリースよりひろぎんHD経済産業調査部作成

宇品に寄港したクルーズ船「ル・ジャック・カルティエ」



（資料）広島県土木建築局提供

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：稲田（TEL082-247-4958）までお願いします。